

— 生きものと子どもたちの笑顔あふれる — ふるさとの川づくり

丹波篠山市は、瀬戸内海に流れる加古川・武庫川、日本海に流れる由良川の3本の河川の源流域に位置します。多種多様な生きものが生息し、子どもたちが生きものの魅力に触れることができる「ふるさとの川づくり」を推進しています。

趣旨

市では、多種多様な生きものが暮らす河川環境を保全・再生し、その魅力を次の世代に引き継いでいくため、平成25年に『ささやまの川・水路づくり指針』を策定しました。「ふるさとの川づくり」は、この指針に沿った取り組みとして、地域や学校、環境創造事業者らと連携して、身近な川を生きものと子どもたちの笑顔あふれる豊かな川に再生させる取り組みです。



取り組みの流れ

事前調査

市の調査や地域からの要望などに基づき実施箇所を選定し、動植物の生息状況や川の特性などを調査します。

目標設定

事前調査の結果に基づき、保全・再生の対象となる生きものや環境を評価し、目指す川の姿を設定します。

工法検討

洪水による浸食や土砂の堆積など、川自身が持つ自然の力をうまく活かしながら、環境の改変が小さい工法や木材・石材などの自然素材を多く用いる工法を優先します。

工事実施

生息する動植物の産卵期・繁殖期を避け、必要に応じて一時的に避難させます。車両や重機による踏み荒らしなど自然環境への影響を最小限にとどめるよう配慮します。

事後調査

保全・再生の対象となる生きものの生息状況などのモニタリング調査を定期的に行い、工法・対策が目標通りに機能しているかを確認します。



事例紹介

堆積した土砂の撤去【小倉川】

大芋地区を流れる篠山川の支流・小倉川では、生きものの生息環境に配慮して堆積土砂を撤去しました。元の蛇行した流れや深みに沿って適度に土砂を残すことで、川が本来持つ自然への復元力を引き出すねらいがあります。



魚道の整備【篠淵川】

西紀北地区を流れる友淵川の支流・篠淵川では、田んぼに水を引くための落差部分に魚の上流への移動を助ける「魚道」を整備しました。コンクリートの斜面に石を組み合わせた低コストで機能的な形状になっています。



地域・学校との協働による川づくり【畑川】

畑地区を流れる畑川では、地元のまちづくり協議会や小学校・高校と連携して、川の将来ビジョンづくりや生きもの調査を行いました。これらの取り組みを踏まえ、令和3年に魚道を整備する予定です。

